

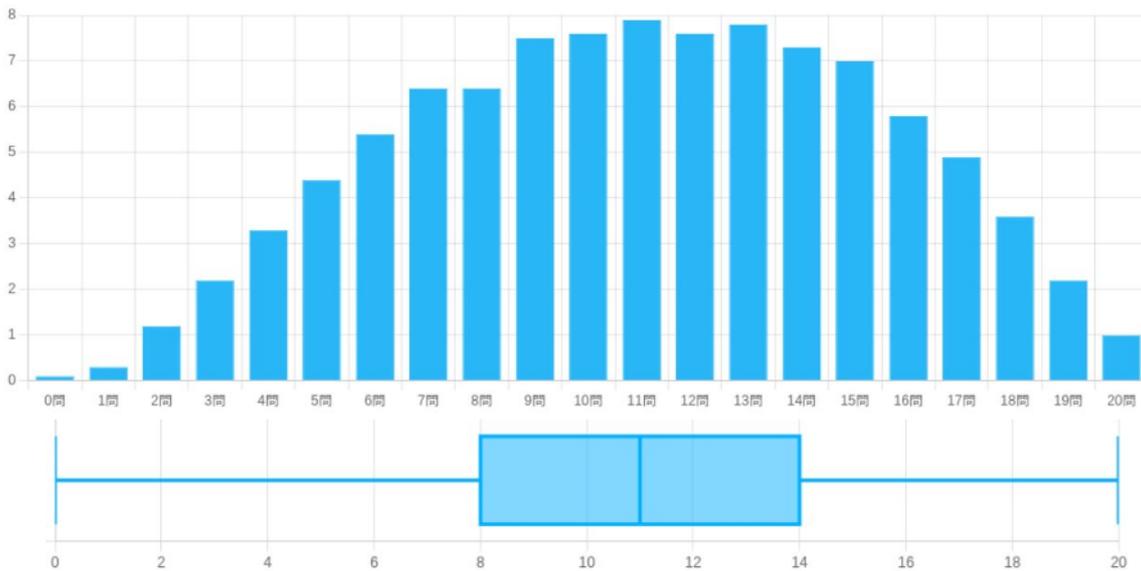
2 社会

小学校第5学年【社会】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	小5	【参考】中1	【参考】中2
	知識・技能	4.9 / 9問 (54.3%)	50.2%	52.6%
	思考・判断・表現	6.2 / 11問 (56.3%)	49.0%	59.1%
全体	11.1 / 20問 (55.4%) スコア461	11.4 / 23問 (49.7%) スコア500	13.3 / 24問 (55.3%) スコア519	

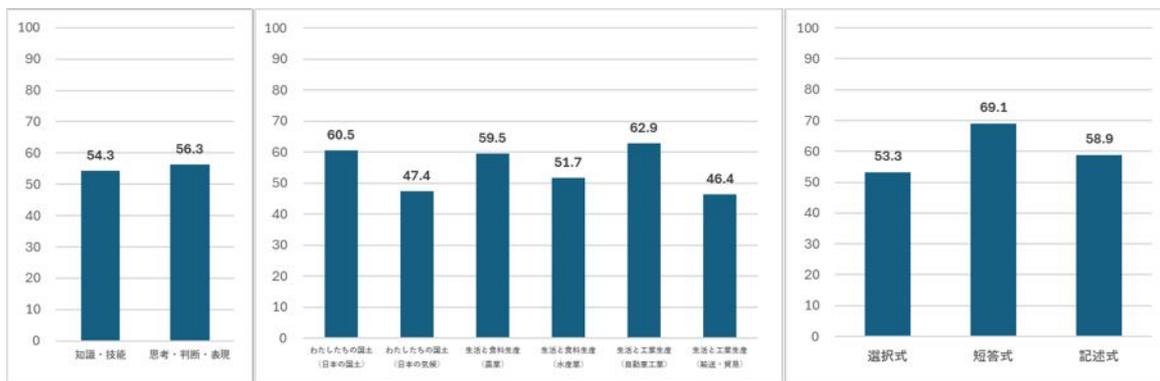
(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層	県	自校
県分布	0~7問 (23.3%)	8~10問 (21.5%)	11~13問 (23.3%)	14~20問 (31.8%)	中央値	11.0
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~20問 (. %)	標準 偏差	4.3

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

小学校 第5学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	20	55.4	
観点	知識・技能	9	54.3	
	思考・判断・表現	11	56.3	
領域	わたしたちの国土（日本の国土）	4	60.5	
	わたしたちの国土（日本の気候）	3	47.4	
	生活と食料生産（農業）	3	59.5	
	生活と食料生産（水産業）	3	51.7	
	生活と工業生産（自動車工業）	4	62.9	
	生活と工業生産（輸送・貿易）	3	46.4	
問題形式	選択式	16	53.3	
	短答式	2	69.1	
	記述式	2	58.9	



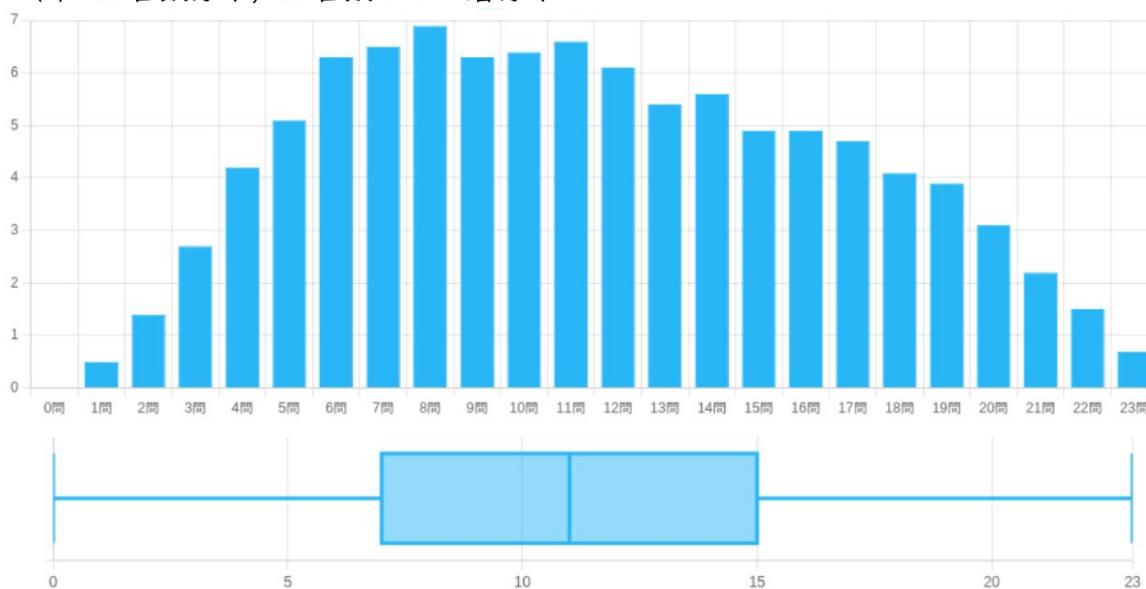
- 小学校第5学年社会の全体正答率は55.4%（11.1／20問）という結果となっています。「知識・技能」54.3%、「思考・判断・表現」56.3%と、両観点がほぼ同程度であり、どちらの資質能力も一定程度身に付いていると言えます。
- 各学力層の分布状況を見ると、A層（学力上位層）は14問～20問と幅広い範囲に分布し、また、D層（学力下位層）も0～7問と広い範囲に分布しています。基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、底上げを意識した取組が求められます。
- 領域別に見ると、「自動車工業」62.9%や「日本の国土」60.5%は高い一方、「日本の気候」47.4%や「輸送・貿易」46.4%は低いことが分かります。具体的事例を基に考える領域では成果が見られますが、条件や要因を関連付けて考察する力に課題があると考えます。
- 問題形式別に見ると、「短答式」は69.1%と高く、「記述式」も58.9%と一定の成果が見られます。一方、「選択式」は53.3%にとどまり、複数の情報を比較、吟味して判断する力を高める学習の充実が求められます。

中学校第1学年【社会】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	中1	【参考】中2
	知識・技能	54.3 %	6.5 / 13 問 (50.2 %)	52.6 %
	思考・判断・表現	56.3 %	4.9 / 10 問 (49.0 %)	59.1 %
	全 体	11.1 / 20 問 (55.4 %) スコア 461	11.4 / 23 問 (49.7 %) スコア 500	13.3 / 24 問 (55.3 %) スコア 519

(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布

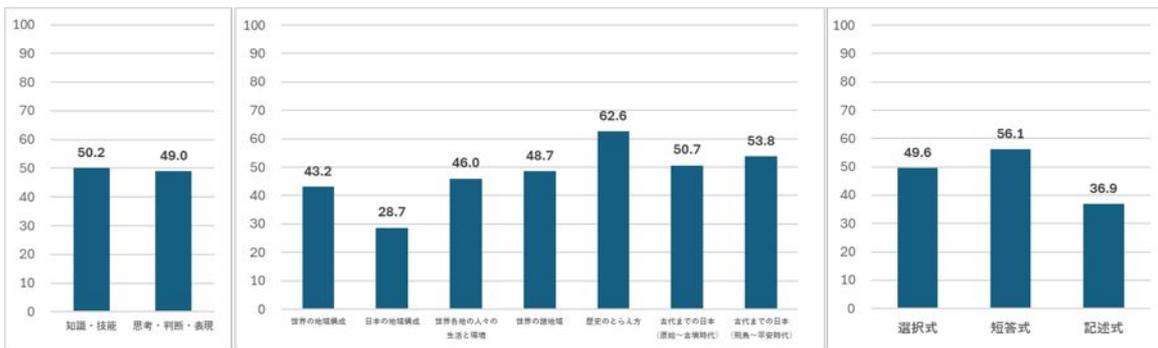


	D層	C層	B層	A層
県分布	0~6問 (20.2%)	7~10問 (26.1%)	11~14問 (23.7%)	15~23問 (30.0%)
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~23問 (. %)

	県	自校
中央値	11.0	
標準偏差	5.2	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第1学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	23	49.7	
観点	知識・技能	13	50.2	
	思考・判断・表現	10	49.0	
領域	世界の地域構成	2	43.2	
	日本の地域構成	2	28.7	
	世界各地の人々の生活と環境	4	46.0	
	世界の諸地域	3	48.7	
	歴史のとらえ方	4	62.6	
	古代までの日本（原始～古墳時代）	4	50.7	
	古代までの日本（飛鳥～平安時代）	4	53.8	
問題形式	選択式	17	49.6	
	短答式	4	56.1	
	記述式	2	36.9	



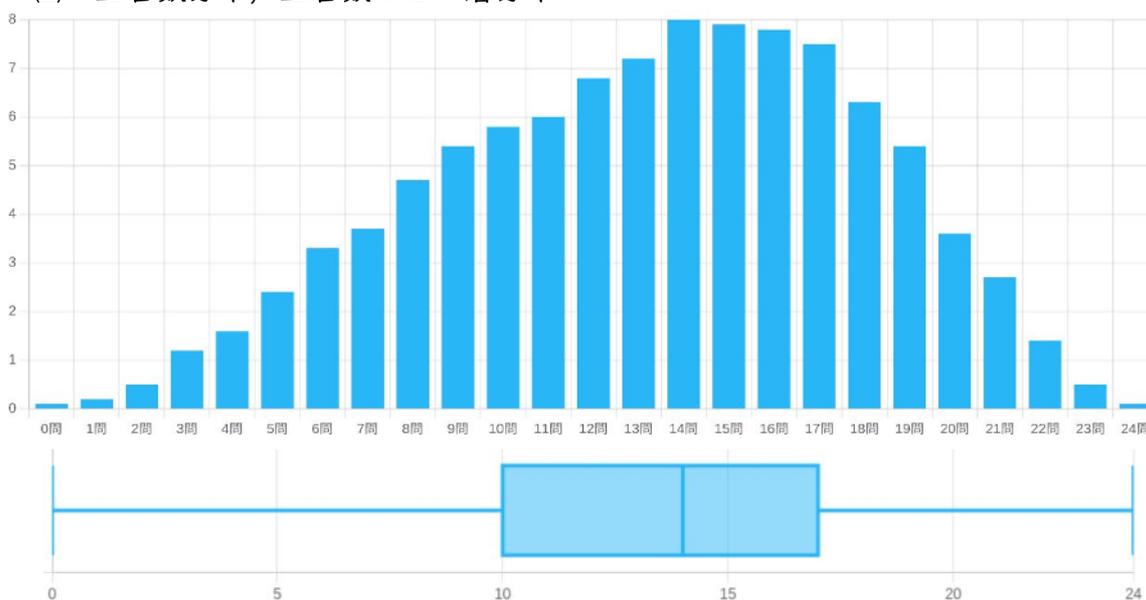
- 中学校第1学年社会の全体正答率は49.7%（11.4/23問）という結果となっています。「知識・技能」50.2%、「思考・判断・表現」49.0%とほぼ同水準であり，基礎的事項の理解と資料を基に考える力は一定程度見られますが，いずれも5割前後にとどまっています。
- 各学力層の分布状況を見ると，A層（学力上位層）は15問～23問と幅広い範囲に分布し，上位層の中でも得点差が見られます。また，標準偏差は5.2とばらつきが非常に大きいことが分かります。上位層内の伸長や下位層の底上げが今後の課題と考えられます。
- 領域別に見ると，「歴史のとらえ方」は62.6%と高く，「歴史の時代区分」等について一定の理解が図られていると言えますが，一方，「日本の地域構成」は28.7%と低い状況にあります。
- 問題形式別に見ると，「短答式」は56.1%と比較的高く，基礎的な知識の定着は一定程度見られます。一方，「記述式」は36.9%と低く，資料や知識を基に考えをまとめて表現する力が十分とは言えない状況にあります。

中学校第2学年【社会】

(1) 平均正答数, 平均正答率

学年別 平均正答率	学年	【参考】小5	【参考】中1	中2
	知識・技能	54.3 %	50.2 %	7.4 / 14 問 (52.6 %)
	思考・判断・表現	56.3 %	49.0 %	5.9 / 10 問 (59.1 %)
	全 体	11.1 / 20 問 (55.4 %) スコア 461	11.4 / 23 問 (49.7 %) スコア 500	13.3 / 24 問 (55.3 %) スコア 519

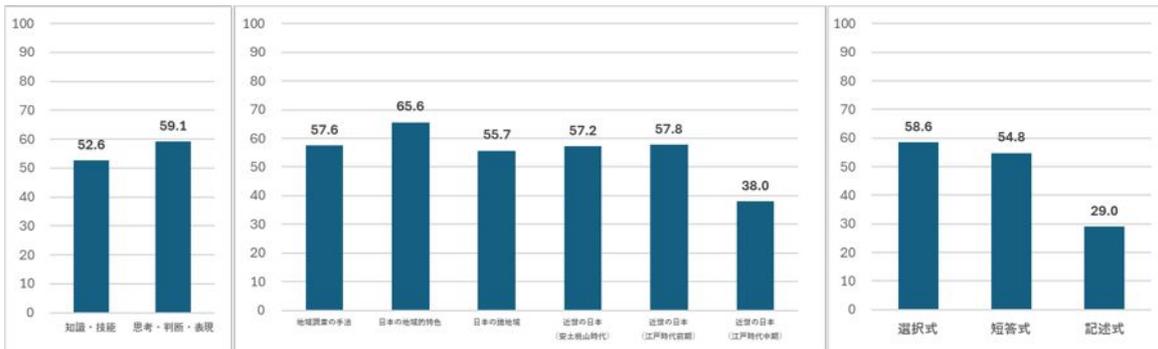
(2) 正答数分布, 正答数ごとの層分布



	D層	C層	B層	A層		県	自校
県分布	0~9問 (23.1%)	10~13問 (25.8%)	14~16問 (23.7%)	17~24問 (27.5%)	中央値	14.0	
自校分布	0~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~ 問 (. %)	~24 問 (. %)	標準 偏差	4.7	

(3) 平均正答率（観点別，領域別，問題形式別）

中学校 第2学年	区分	問題数	平均正答率(%)	
			R7	自校
	全体	24	55.3	
観点	知識・技能	14	52.6	
	思考・判断・表現	10	59.1	
領域	地域調査の手法	4	57.6	
	日本の地域的特色	4	65.6	
	日本の諸地域	4	55.7	
	近世の日本（安土桃山時代）	4	57.2	
	近世の日本（江戸時代前期）	4	57.8	
	近世の日本（江戸時代中期）	4	38.0	
問題形式	選択式	17	58.6	
	短答式	5	54.8	
	記述式	2	29.0	



- 中学校第2学年社会の全体正答率は55.3%（13.3/24問）という結果となっています。「知識・技能」52.6%に対し、「思考・判断・表現」は59.1%とやや高い状況です。
- 各学力層の分布状況を見ると、D層（学力下位層）は0問～9問と幅広い範囲に分布し、下位層の中でも得点差が見られます。中央値は14問（全24問）、標準偏差は4.7であり、C層（学力中位層）・D層（学力下位層）の底上げが今後の課題と考えられます。
- 領域別に見ると、「日本の地域的特色」は65.6%と高く、「日本の気候の特色」等について、一定の理解が図られていると言えます。一方、「江戸時代中期」は38.0%と低い状況にあります。
- 問題形式別に見ると、「選択式」58.6%、「短答式」54.8%と基礎的な知識の定着は一定程度見られます。一方、「記述式」は29.0%と低く、資料や知識を根拠として、自分の考えをまとめて表現する力が十分とは言えない状況にあります。